

## 1年数学科 学習ガイダンス

★数学の課題は、①予習プリント（5枚）②ワーク（数学の問題ノート）です。

まずは、教科書を読み、予習プリントで要点を確認しましょう。空欄になっているところは、大切な数学用語が多いです。しっかりと漢字で書けるようにしましょう。

プリントが終わったら、ワークです。問題を解いて、理解ができているかを確認しましょう。丸付けの方法は、以前に宿題プリントに書いてある通りです。ここまでが宿題です。

その後は、間違えた問題を、カテ学ノートなどで復習しましょう。これが自分の勉強になります。今回から、中学校での数学の勉強が始まります。予習ですが、自分で頑張ってみましょう！

下の表は教育委員会が公開している教科書のポイントです。ぜひ活用してください☺ 1年数学科

教科書のページ	教科書のポイント
P 10～P 12 符号のついた数 プリント P1.2 ワーク P2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 0℃より3℃低い温度を-3℃とし、「マイナス3℃」と読む。</li> <li>● 0℃より5℃高い温度は+5℃とし、「プラス5℃」と読む。</li> <li>● +を<b>正の符号</b>、-を<b>負の符号</b>という。</li> <li>● +5や+8のような数を<b>正の数</b>、-3や-5.5のような数を<b>負の数</b>という。</li> <li>● 0は正の数でも負の数でもない数である。</li> <li>● 整数には、<b>正の整数</b>、<b>0</b>、<b>負の整数</b>がある。</li> <li>● 正の整数は<b>自然数</b>ともいう。</li> </ul>
P 13～P 16 数の大小 プリント P3.4 ワーク P4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数直線上で0が対応している点を<b>原点</b>という。</li> <li>● 数直線の右の方向を<b>正の方向</b>、左の方向を<b>負の方向</b>という。</li> <li>● 正の数は0より大きく、負の数は0より小さい。</li> <li>● 数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離を、その数の<b>絶対値</b>という。 例えば-3という数は-の符号と3という絶対値からできている。</li> </ul>
P 17～P 21 加法 プリント P5～7 ワーク P6～9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● たし算のことを<b>加法</b>ともいう。</li> <li>● 絶対値の等しい異符号の2つの数の和は0である。</li> <li>● 同符号の2つの数の和は、絶対値の和に共通の符号をつける。</li> <li>● 異符号の2つの数の和は、絶対値の大きいほうから小さいほうをひき、絶対値の大きいほうの符号をつける。</li> <li>● 2つの正負の数の加法では、加えられる数と加える数を入れかえても、和は変わらない。これを加法の交換法則という。</li> <li>● <math>(a+b)+c=a+(b+c)</math>これを<b>結合法則</b>という。</li> </ul>
P 22～P 24 減法 プリント P8 ワーク P10.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正の数、負の数をひくことは、その数の符号を変えて加えることと同じである。 例えば、<math>(+2) - (+5) = (+2) + (-5)</math>と同じ。</li> <li>● 引き算は、次のよう計算できる。 <math>(+3) - (-5) = (+3) + (+5) = +8</math></li> </ul>

P25～P28

加法と減法の混じった計算

プリント P9.10

ワーク P12～15

- $4 - 7 + 9 - 5$  という式の、 $+4$ 、 $-7$ 、 $+9$ 、 $-5$  を項といいます。

- $(-5) - (-2) - (+4)$  は次のように計算できる。

方法1

$$(-5) - (-2) - (+4)$$

→すべてを足し算にする

$$= (-5) + (+2) + (-4)$$

→引き算をたし算にすると後ろの符号が変わる

→すべて、たし算になれば交換法則をつかい並び替えることができる

$$= (+2) + \underline{(-5) + (-4)}$$

→結合法則を使う

$$= (+2) + (-9)$$

$$= -7$$

方法2 項の考え方を使った計算

$$(-5) - (-2) - (+4)$$

→すべて、たし算にする

$$= (-5) + (+2) + (-4)$$

→+ (たす) をとり、項にする

$$= -5 + 2 - 4$$

→この式は、 $-5$ 、 $+2$ 、 $-4$  のカードと考えるとイメージしやすい。

$$= +2 - 5 - 4$$

$$= +2 - 9$$

$$= -7$$

$-4 + (+6) - 7 - (-9)$  を計算する

$$-4 + (+6) - 7 - (-9)$$

$$= -4 + (+6) - 7 + (+9)$$

$$= -4 + 6 - 7 + 9$$

$$= -4 - 7 + 6 + 9$$

$$= -11 + 15$$

$$= +4$$